

山とふれあう機会を

第4回ワークショップ開く

伊藤☆牧場

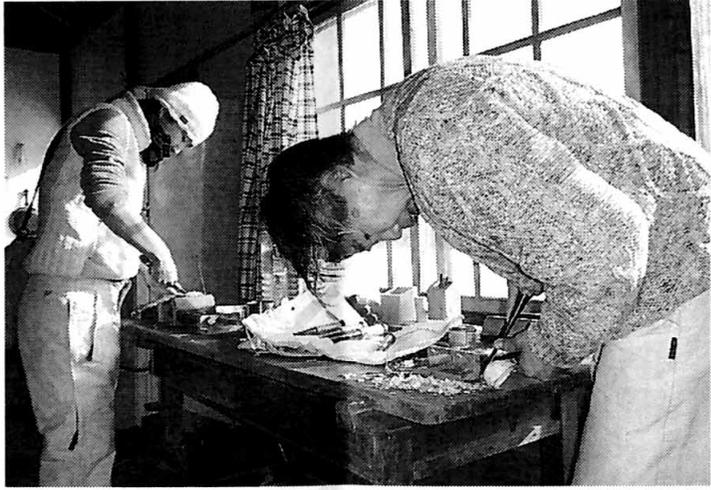
白樺の幼木を使ったス

加者ら

市内明郷の伊藤☆牧場（伊藤泰道代表）とラフォーレストソウルプロジェクトは十七日、明郷会館脇の森でワークショップを開いた。「山とつきあう木とつきあう」と題した四回目は、冬の椎茸ほだ木伐りと白樺の木でミニスプーン作りを実施し、根室、別海、釧路からの参加者は、きっかけが無いと触れ合うことの少ない「山」や「木」と親しみながら楽しいひと時を過ごした。

冬のワークショップは、森林作業と木工の基礎実践をテーマに、フォレストソウルプロジェクトの中川貴之さん（別海）の指導のもと、明郷会館脇の森や明郷会館で活動した。

森ではチェーンソーを使用し、木の水分が少ない冬に行う椎茸のほだ木伐りに挑戦。原木を伐採し、「玉切り」という一定の長さに切る作業を樹皮をノコギリで傷つけないよう気を付けて作業した。植菌は次回のワークショップで行い、椎茸の収穫は来年以降の予定だ。



プーン作りでは、枝の部分を柄に利用したデザインのものを作製した。手ノコや彫刻刀を使って丁寧に削り、思い思いの形を作った。参加した根室在住の藤原奈津代さんは関西出身で、このワークショップへの参加は三度目。「木を切るのは思っていたより大変ですね」と話し、自然とスプーン作りで木を削る参加者ら

の触れ合いを楽しんだ。主催した中川さんは「今後も山や木と触れ合うきっかけを提供し、自然を楽しむノウハウを広めていきたい」と話し、和やかな雰囲気です。指導していた。（高合）

平成22年1月18日 根室新聞